

セミナー通信

V o l . 1 8 4

西村セミナールーム

主宰 西村 恵子

学力評定に本来「意欲」の評価は必要ない

'10 年度 塾生 1 学期通知表結果

9科目別平均		英語	数学	国語	社会	理科	5科目計	音楽	美術	保体	技家	9科目計
学年	3	5.0	5.0	4.4	4.5	4.6	23.5	4.2	3.9	3.7	4.4	39.7
	2	5.0	4.6	4.2	4.3	4.3	22.4	3.7	3.6	3.9	3.8	37.3
	1	4.6	4.8	4.1	4.5	4.3	22.3	3.8	4.1	3.9	4.2	38.3

塾生 5 科目別内申評定割合 (%)

	英語	数学	国語	社会	理科
5	93	78	37	46	49
4	5	20	49	46	39
3	2	2	15	7	12
2	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0

塾生 9 科目合計内申割合 (%)

	'10	'09	'08	'07
40～45	51	33	38	20
36～39	22	27	21	37
32～35	24	27	28	27
27～31	2	12	14	17
9～26	0	0	0	4

今年度初めての通知表が出ました。受験にむけて勝負の学年となった中 3 は、全員が英数の評定で「5」をいただき、7 割が 2 学年時に比べ合計評定アップ、もしくは維持という結果でした。もともと高い評定をいただいていた塾生の多い学年でしたので、維持することも難しい状況でしたがふんばりました。でも逆に、中間テスト、期末テストとがんばって学年順位を上げたにもかかわらず、残念ながら評定を下げた塾生もいました。ある塾生は、ある教科において定期テストの点数も相対評価で「5」、提出物も出していたにもかかわらず、授業ノートに書き込む毎回の感想が短すぎるという理由で「4」をつけられてしまいました。

もちろんこれは本人のミスです。現行の評価方法では、この大事な学年では今まで以上に態度、提出物に気を配らなければなりません。特に「5」をそろえる必要がある塾生にとってはテストの点は取れて当たり前で、態度点をいかに高く評価してもらうかが重要ポイントとなるのです。残念ながらこのノートによって、この塾生は「意欲不足」と評価され、評定を 1 点下げられてしまったのです。

しかし・・・です。この塾生は本当に「意欲不足」だったのでしょうか。決してそうではありません。テストが広範囲であったにもかかわらず意欲的に取り組み結果を出しました。この頑張りが評価されなかったのは残念で仕方ありません。

「意欲」というものは外から見ただけではなかなかわかりません。授業中、手を上げなくても一生懸命考えていることもあれば、その逆もあります。

学力の評定に「意欲」が絡んでくると自体がおかしいのです。絶対評価でも到達基準を定めて、テストの点数のみで評価するとすっきりするでしょう。ただし、そのような評価方法に変わるためには、学校が内申を盾に管理しなくてもすむような授業態度を生徒がとることが絶対条件ですけどね。